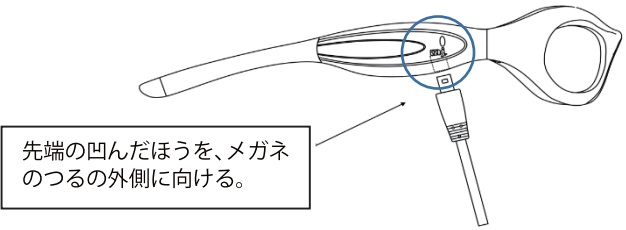
メガネ本体の充電の仕方

■お取扱いには十分にご注意ください

強い衝撃は避けてください。高速液晶レンズやCPU回路などを組み込んだ精密機器です。また、フレームを広げ過ぎたり、過度な負担をかけると、内部配線の接触不良を起こすことがあります。

■充電時の注意点

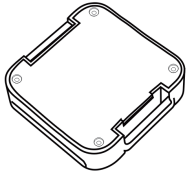
メガネ本体の内蔵バッテリーに充電の際は、充電プラグの差込方向を十分に確認の上、接続してください。
方向が違ったり、無理に挿入すると電気配線が故障することがあります。

※充電時は、メガネのつるの外側にUSBケーブルの "差し込みプラグストッパー" （先端の凹んだ部分）を合わせて差し込みます。

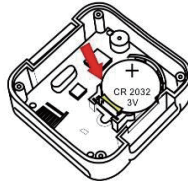
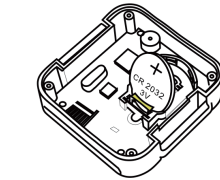
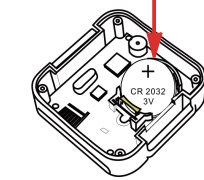
※逆方向に差し込んだり、無理に挿入すると差込口の破損や電気配線の故障の原因となります。

※初回のみ４時間充電してください。２回目からは、青色のランプが消灯したら充電完了です。

リモコンの電池交換の仕方

■裏蓋の開け方

リモコンの電池は、裏側の４ヶ所のネジをゆるめ、裏蓋を開けて交換ください。その際、必ず精密機器用(＋)ドライバーを使用ください。
100円ショップ等にて購入頂けます。

■電池のはずし方

電池交換時は、矢印の方向から小さい(－)ドライバーを使用し、リチウム電池の下側を少し持ち上げ電池を取り外します。
電池タイプは、CR2032です。

■電池の取り付け方法

電池を金色の金属片の下に入れてセットします。

図の位置にセットし電池を下に押し下げます。

※装着後の電池は金属片の下になっていることを確認ください。裏蓋は隙間なくセットしてネジをお締めください。
※不慣れな方は、電気店などにご依頼ください。
※電池の残量は表示しません。バッテリーマークが点滅すると、電池の残量わずかです。

その他の機能

■メモリー数値の設定／変更

・リモコンの電源OFF⇒電源ON⇒SLボタン長押し⇒設定／変更モードに入る
・SWボタンで周波数とDUTYを切り替え▲▼ボタンで数値を変更
・STボタンを押す毎に次のメモリー表示に切り替わる
・保存して終了するには電源OFF

■メモリー数値の確認／呼び出し

・STボタンを長押し⇒メモリー確認モードに入る
・STボタンを押す毎に次のメモリー表示に切り替わる

※確認モード中は数値の変更はできません

・終了するには電源OFF

■左右のレンズ単独点滅と設定変更

・電源ONでレンズが点滅中に、STボタンを押すたびに、
左点滅→右点滅→左OFF→左点滅→左点滅と切り替わる

■本体とリモコンの同調設定

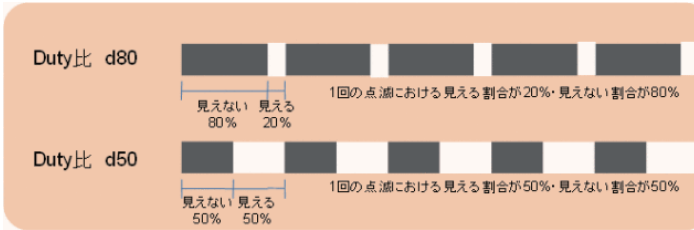
※出荷時に同調済みですので、通常は不要です。電池交換後や修理後にのみ必要です。

・メガネ本体OFF ⇒ 電源スイッチを5秒押す ⇒ 赤橙が同時点灯
・次にリモコンOFF ⇒ 電源スイッチを5秒押す ⇒ ピーピーピーと3回鳴ったら完了 ⇒ 一旦OFFにする

プライマリーの点滅システム

■点滅回数（周波数）とDuty比率（遮断率）

１秒間の点滅回数の調整に加え、遮断率の調整も可能で、あらゆる用途に対応します。

・ D ＝ Duty比率 ＝ 遮断率

Dが高い/負荷が高い/暗い　　Dが低い/負荷が低い/明るい

・ H ＝ 周波数 ＝ 点滅回数

Hが高い/負荷が低い　　Hが低い/負荷が高い

プライマリーの使い方

【メガネ本体】

一時停止ランプ（黄）
●SLEEP中：点灯

充電用プラグ差込口

電源ランプ（赤）
●電源ON時 ：点灯
電源OFF時：消灯
電池残量低下時：点滅

電源 ON/OFF スイッチ

■電源ON
メガネ本体のツルの下の突起が電源スイッチです。軽く “ポン” と押すと赤色のランプが点灯して、レンズ部分が点滅します。

注）電源を入れる際、スイッチは長押ししないでください。同調モードに変わり操作できなくなります。
もう一度スイッチを押すと通常モードに戻ります。）

注）バッテリー残量が少なくなると赤色ランプが点滅します。

■一時停止
電源ONのまま、電源スイッチを軽く “ポン” と押すと一時停止となり、黄色のランプが点灯します。もう一度スイッチを押すと、一時停止を解除します。

■電源OFF
電源スイッチを軽く ５秒ほど押し続けます。赤色と黄色のランプが同時に点灯後、スイッチから指を離すと電源が切れランプも消灯します。

プライマリーの使い方

【リモコン】

■電源ON/OFF

右上の電源ボタンを軽く “ポン” と押すと電源が入ります。
電源を切るときは長押しします。

※電源を入れる際、電源ボタンは長押ししないでください。モードが変わり操作できなくなります。
※２分間操作しない場合も、自動的にOFFになります。

■設定変更

1）中央上のSWボタンで画面左端の▶の位置を変更したい項目（Dまたは Hに合わせます。）
2）左上（▲）または左下（▼）のボタンで数値を変更します。

■一時停止

右下 SL ボタンを押します。電源ボタンを押すと解除されます。

プライマリーの効果と設定のコツ

■プライマリーの２つの効果

①スローモーション効果
速いモノを遅く見ることで予測機能を高める。
<Dは低めに、Hは高めに設定>
例えば、野球でピッチャーが投げた球の回転や軌道から瞬時にコースを予測するトレーニングに使えます。

②視覚負荷の効果
見づらい状況を作り、それを克服することで動体視力を鍛える。
<Dは高めに、Hは低めに設定>
例えば、野球のバッティングで、見えない部分を補おうとするため、眼筋が刺激され動体視力が向上するとともにボールを集中して最後までしっかりと見ることが習慣になります。

■設定のコツ

D（Duty比率＝遮断率）は、明るさの調整

30（明るい・視覚負荷が低い） ↔ 95（暗い・視覚負荷が高い）
基本はD50です。
暗ければ下げる、負荷をかけるには上げてください。

H（Hz＝周波数）は、見るモノの速さに合わせる

1Hz（遅い・視覚負荷が高い） ↔ 200Hz（早い・視覚負荷が低い）
基本は、1km/h で 1Hz です。 50 km/h なら 50Hz、
負荷をかけるには5～10%低くしてトレーニングしてください。

※初期設定は、D 50/H 005
⇒ 遮断率(Duty 比率)が 50%で、周波数(Hz)が 5 回の意味

トレーニング方法

■スポーツビジョン　～野球を例として～（他の種目にも応用出来ます）

1. 最初は2～3分、D50、H050で軽くキャッチボールをして目を慣らす。
何回か使用して慣れてきたら、この項目は不要です。

2. スローモーション効果

最終目標（実戦の球速、ここでは110km）をスローモーション効果で見てみる。Dは50、Hを100から徐々に上げながら、一番ゆっくりと見える所に設定する。バッターまたはアンパイヤの位置で5分ほど集中して球の回転や軌道を確かめること。見るだけでOK。

3. 視覚負荷の効果

遅い球から始めること。トスバッティングなどで十分動体視力のトレーニングになります。D60、H030でスタート⇒克服できたらHを徐々に下げる。球速を上げる場合はHを新たに球速に合わせて設定し、徐々に低めにして負荷をかける。

※乗り物酔いに似た症状を起こすことがありますので、20Hz以下での長時間の使用は避けてください。
※詳細は、HPトップページからトレーニングマニュアルや種目別解説書を参照ください。

■アンチエイジング　～加齢による動体視力の衰えの回復～

1. 誰かにゴムボールを投げてもらったり、転がしてもらってキャッチする練習を1回に5分ほど行う。週に2, 3回程度でOK。設定は、D50、H020。
小さなボールが難しい方はビーチボールなどを使用下さい。椅子に座ってテーブルの上でボールを転がしてもOKです。

2. 一人の時は、室内で壁に向かって座り、投げたゴムボールをキャッチする練習でも結構です。

※1回あたりの時間は5分以内、頻度は週に2, 3回。長くしたり頻度を上げても効果は同じです。
※慣れてきたらHを徐々に下げて行なってみてください。室内で暗過ぎる場合は、Dを40～30に下げてください。